



## Aカードホテルシステム

# 「ビジネスマンのホテル利用実態」

## アンケート結果を公表

独立系ホテルのキャットシユバックポイントカード「Aカード」事業を運営するAカードホテルシステム(東京都千代田区)はこのほど、「出張ビジネスマンのホテル利用実態に関するアンケート」の結果を公表した。回答者は平均で38日宿泊し、宿泊料金の実費精算の割合が高くなってきたことなど、興味深い結果が明らかになった。

宿泊日数の平均が約40泊ということは、40人の団体が1泊することと同じ。Aカード会員が優良リピーターになる可能性が高いことが伺える。

予算と実額を見ると、東京・大阪泊の予算で最も回答が多かったのは「1万～9千円」。地方都市泊が「8千円程度」。一方で実額は「6500円程度」にとどまり、3500～15000円の差額が生じている。

精算方法は「実費精算」の比率が2009年調査では36%だったが、今年には49%に上昇、「定額制」を逆転した。一般的に実費精算の顧客の場合、費用を抑えるよりもサービ

スを重視する傾向がある。同社では客室単価向上のため、実費精算者向けプランの販売強化が必要としている。

実費精算の顧客(最多価格帯7千円台)と定額制の顧客(同6千円台)の宿泊料金の差は700円程度あることから、実

費精算向けプランでキャッシュバックを取り入れることの有効性を強調している。

ホテルを選ぶ理由は「宿泊料金の納得感」が1位。以下「立地、交通の利便性」「部屋の設備・雰囲気」「特典やメンバーサービス」などと続

く。1位の内容を見ると、低価格指向が5割に達する一方、サービスを充実させた高価格志向も4割存在した。

このほか、予約方法の1位は「インターネット予約」で8割近くを占めた。予約のタイミングは、「1週間前」が最も多く、

次いで「2～3日前」「1カ月前」となった。調査は2009年から毎年1月に行っている。今年1月7～13日、30～50歳代のAカード会員1848人(男性1722人、女性126人)を対象にインターネットで実施した。